

水稻(品種:ふさこがね)

夷隅農林振興センター

1 地区名(団体名)

いすみ市岬地区(岬稲作研究会)

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 4戸
- (2) 栽培面積 220a
- (3) 収穫量又は出荷量 13,300kg (605kg/10a)
- (4) 出荷先又は販売方法 JAいすみ

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	6回	7回
化学肥料(窒素分量)	4.24kg/10a	4.5kg/10a

4 事例のあらまし

岬稲作研究会では県の「ふさこがね」栽培普及展示ほをきっかけに、大粒で良食味、いもち病に耐病性をもつ特性を活かし、ちばエコ栽培の生産を始めました。

栽培はちばエコ認証を受け、他の品種では追従できない2.0mm網目の選別を行っています。

コシヒカリ以外の品種として、また、特徴のある米づくりとして今後の普及に期待が集まっています。

5 背景・動機

(1) いすみ市岬地区の水稻生産

いすみ市岬地区は良質の早場米地帯として高い評価を得ています。平成20年のちばエコ米栽培は、約49haで行われました。また、JAいすみもっと安心米生産班では約29haで取り組まれています。

(2) ちばエコ栽培の導入

岬地区では多くの生産者が有機入り肥料を使った栽培を行い、特別栽培米に取り組んでおり、JAいすみ岬ライスセンター「里の秋」に代表される良食味米の栽培にも取り組んできました。

これまでの特別栽培米に取り組んだ経験を生かし、研究会員は平成16年産から、コシヒカリを中心に「ちばエコ米」生産に取り組んでいます。

(3) 「ふさこがね」の導入と「ふさこがね」ちばエコ栽培

平成17年は、奨励品種に採用された直後で県の現地試験栽培を会員ほ場で行い、品種の特性を確認しました。

平成18年・19年は、県の「ふさこがね」栽培普及展示ほを受託しました。18年は、ちばエコ栽培を想定した施肥試験を行い、施肥面での成果を得ました。そして、19年は、ちばエコ認証を受け、エコ栽培を実践し、農薬面でも技術的に確立してきました。

その結果、「ふさこがね」は、収量性は高く、また、栽培しやすいことが判りました。

品質面では、通常の1.8mmの網目での選別では未熟粒が残るため、大粒の特性をさらに活かすには、それ以上の網目を使うと良いことが得られました。

大粒の特性を活かした栽培をすることで、コシヒカリとは違う特徴を持ったお米として評価されると考えられました。



実証展示ほ場によるエコ栽培方法の確立



エコ栽培は健苗育成から

6 栽培方法

(1) 土づくり

稲わらを連年施用しています。稲わらの分解を早めるよう、早期のすき込みに努めました。

(2) 播種

「ふさこがね」は休眠が強いといわれていますので、催芽器の利用により、均一な発芽に努めました。

種子消毒は生物農薬のエコホープD Jを効果が安定するように、催芽前に処理します。

播種量は、1箱当たり160g程度にしました。

(3) 育苗

健苗育成のため、温度管理を適切に行い、活着の良い苗づくりに努めました。

(4) 移植

ふさこがねの品種特性から、施肥量が少ないと穂数が少なくなる傾向にあることから栽植密度が低くならないよう、18株/m²を標準に移植し、穂数の確保を図りました。時期は4月15～30日です。

(5) 施肥

有機入り肥料を使用し、化成窒素成分を減らしています。

(6) 病害虫防除

育苗箱施用によって、初期害虫を防除しています。

本田では航空防除によるカメムシ類・いもち病・紋枯病防除を実施しています。航空防除地区外では、すくいどりによる害虫の発生調査を行い、防除基準をみながら、カメムシ類の防除を行いました。

(7) 雑草防除

田植え後の初中期一発剤による防除を行いました。

畦畔雑草は、カメムシ類の生息地になるので、畦畔除草機や刈払い機での除草に努めました。

(8) 水管理

中干しや間断かんがいは慣行栽培に準じて行いました。

(9) 追肥

①中間追肥

土壌にリン酸が少ない傾向と根張りを良くするため、リン酸を含む肥料として粒状苦土過燐酸を5月末に追肥しました。

②穂肥

出穂20～18日前に有機追肥530特号を20kg/10a施用しました。

(10) 収穫

帯緑色籾歩合15%を目安に適期収穫を行いました。

(11) 乾燥調製

選別網目2.0mmを使用します。「ふさこがね」は登熟が良いので未熟粒は少ないのですが、大粒なので従来の網目では未熟粒が残ります。そこで、整粒歩合を高め、品質の良さを求めました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年 8月21日
耕起	9月
播種	平成20年 3月16日
移植	4月17日
病害虫防除	3月 2日
	4月10日
	7月19日
収穫開始	9月 1日
収穫終了	9月 1日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
稲わら	平成19年9月	0.5t		
マイルドユーキ030 (10:13:10)	平成20年4月17日	40kg	4kg	1.88kg
17.0粒状苦土過磷酸 (0:17:0)	5月30日	20kg		
有機追肥530特号 (15:3:10)	6月27日	20kg	3kg	2.36kg
合 計			7kg	4.24kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
※エコホープD J	もみ枯細菌病、ばか苗病、苗立枯細菌病、褐条病	平成20年3月2日
プリンス粒剤	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	4月10日
ミスターホームランLフロアブル	水田一年生雑草 ミズガヤツリ	4月17日
アミスタートレボンSE (空散)	いもち病、紋枯病、カメムシ類	7月19日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

「ふさこがね」は、これから消費者の評価を受けることとなります。品種の特性を活かした栽培をするとともに、消費者に対してちばエコ農産物の宣伝効果を活用して、良さを積極的にPRすることが必要です。そして、より高品質な「ふさこがね」が生産されるよう推進します。